



フィリピン災害 Update

CCMN チームからの報告

2012年1月25日～31日

フィリピン南部洪水災害支援

CCMN（セルチャーチ・ミッション・ネットワーク：香港）は、世界各国から短期宣教チームがフィリピン災害支援へ参加されることを、引きつづき呼びかけています。どなたでも参加することができます。次のCCMNチームは3月4日～10日と4月4日～10日の2チームの派遣が予定されています（参加希望の方は直接CCMN事務局へ連絡されるか又はJCMN事務局までご連絡ください）

カガヤン・デ・オロ市(C. D. O.)におけるCCMN短期チームの働き

多様な方法をもつてのフィリピン人に対する奉仕

ジョジョ・サバレロ 記

国境・海・陸・言語および時間を超え、今回のCCMNチームは1月15日午後4時にフィリピン現地に到着しました。短いオリエンテーションに食事の後、チームは次の日からの働きの為、早く就寝につきました。

この短い期間を振り返ってみても、カガヤン、タゴアロアン、ミサミスオリエンタルにおいて、CCMNはすでに600人以上の人達に仕えてきました。ネットワークを通して災害初期以来多くのクリスチャンや教会が必要に応じ、国際災害対策ネットワークの働きを、祈りや経済的な支援により支持してくださっています。その一環として、近日2012年1月25日にチームが到着し、被害を受けた地域社会や現地の家族を助ける目的で働きました。

チームはフィリピンで、短期間にもかかわらず、非常に多様な働きをしました。

彼らは多大なインパクトをもたらしました。様々な場所へ周りながら、カウンセリングや祈り、医療ミッションに治療介入、仮設住宅訪問、被災者の方々の話を聞くこと、支援物資の配布、仮設シェルター、“台風センドン”(21号)による洪水によって泥水の入ってきた家の掃除等、彼らの提供できる全てをもって仕えました。

ほとんど休息を取れないまま、次の日に行う医療の予約番号を配布している間に、カママンにある避難センターの1つを訪問しました。他のチームはラパサンにある避難センターを訪問し、米、水、缶詰を含む支援物資をシェルターで過ごしている家族へ配布しました。

その日のうちに、CCMNチームはIDRN(国際災害救済ネットワーク)カガヤンチームと一緒に、見放されているイスラ・デルタとイスラ・デ・オロの地域を訪問しました。チームは空家、壊れた家屋、洪水の残骸、2011年12月16日の夜まさに“台風センドン”が被害をもたらしたそのままの状態に遭遇しました。チームリーダーのエドウィン・クオックとジョサナ・ウォンは何年か前にはこの地域がどのような場所であったかを思いめぐらしていました。彼らはこの場所を何度か通ったことがあり多くの人たちで賑わっていた事を思いだし、破壊的な洪水の後、活気で溢れていた町が、人気のない寂れた町になっている現状を目の当たりにするだけでした。そしてその後、被害の少なかったマカサンディグ地域を訪問しました。その日の働きを終える前に、エドウィン・クオック率いるチームと地

元ボランティアはマビニバーゴス通りにある教会員の所有する被災した家を清掃しました。

2日目には、IDRN チーム、CCMN チームとインターナショナルチーム（フィリピンの医療救済チーム）の共同ボランティアチームは医療を通して奉仕しました。マニラから来ていた技術チームは医療を受ける為の順番を待っている人たちにマッサージを施しました。**被災者たちは、無償の医療支援を受けるだけでなく折りや、薬、理学療法士による治療も受けました。**共同ボランティアチームはこの日多くの素晴らしいコメントを貰い、奉仕している側にとってもとても元気づけられる日となりました。

他方では、CCMN は IDRN のパートナーであり福音教会のフィリピン救援サービスによる**学校備品の配布をコンソラシオン小学校で手伝いました。**この日だけでも、共同チームは 198 人の被災者に対応することができました。

2012 年 1 月 28 日、とてもユニークな形でのミニストリーが行われました。CCMN はキャラナンにあるテント設営地を訪問した時に、言語の壁がある中、チームはテント地の国内難民の人々に細心の注意を払いトラウマカウンセリングを行いました。各通訳者と共に、恐ろしい経験をした人たちに関する為に、2 人組で各テント訪問してまわりました。一箇所ずつ少数で訪問することで、訪問したチームメンバーに心を開いて自由に分かち合う機会を与えることができますからです。フロラとウキは、地元の通訳者ディクシー・バンタグ、ハニー・バンタグと一緒に、猛烈な台風センドンによって長子を失ったご夫婦を訪ね話を聴くことができました。この家族が台風が来た夜、どのようにして生存されたのかを聴いた後、この夫婦は父親が 3 人の内 2 人の子供を抱え、母親がすぐに激しい流れの水の中を懸命に超えようとする中、行方不明になってしまった残りの 1 人の子供を抱えていたことがわかりました。

洪水以来、40 日以上時間が経過しているのにも関わらず、この夫婦にとっては鮮明な出来事でした。涙が彼らの目から溢れる中、今まで彼らの内にあった痛みが解き放たれているようでした。そして、この夫婦との思いがけない出会いの後、特に母親の内にあったどうしようもなかった特別な感情がリリースされ、夫婦共、慰めと休息を神様の約束の中に見つけることができましたのです。同じく、リディアは子供たちにアクション付きの歌を教えていました。実際、楽しい時間を持つと共に、子供たちに歌やダンスをすることを通じて彼らの心の内を聴くことをしました。

IDRN 協力チームと CCMN は医療クリニックを開催し、92 人の患者を市内の何箇所かの違う場所で診ることができました。25 人の患者は無償の健康診断を受け 5-7 日間の薬を与えられ家に帰っていきました。この無償の健康診断は IDRN の司令部にて行われました。

200 人以上の子供達はこの日のご馳走を楽しみ、ダンスや歌の楽しい時を過ごしました。これに加えて、子供の両親達は、食べたり、学校用品を貰ったりして喜び、自由に楽しんでいる子供達を見ることが喜びのようでした。

長い距離を、色んな国から参加した人達は、台風によって被害を受けたフィリピンの人々に仕えるために、一緒に働くことができました。**CCMN チームの存在は、共にパートナーやボランティアとして働いた人々に変化を与え、CCMN チームが滞在中に訪問した各地域においても変化をもたらしました。**本当に、チームは台風センドンによって引き起こされた鉄砲水によって被害を受けた人々に真の愛とケアを示すことができました。

CCMN（セルチャーチ・ミッション・ネットワーク：香港）は、世界各国から短期宣教チームがフィリピン災害支援へ参加されることを、引きつづき呼びかけ続けています。どなたも参加することができます。5 月、6 月の短期宣教チームは未定です。もし短期宣教 (STM) に参加されたいと思われる方は参加申し込み希望と CCMN スタッフのジョージ George (ccmngeorge@gmail.com) までメールしてください。



経済援助：

フィリピン政府は400米ドル(日本円で3万円程度)を自宅の倒壊した人に支給する事にしていますが、実際は1000米ドル(7万6千円程度)費用が掛かります。そこでCCMNは、120の家族それぞれに、家の再建プロジェクトのために600米ドル(4万6千円程度)ずつの財政支援を行う計画をしています。教会、セルグループ、ご家族でこの必要を重荷に覚えてくださいますようお願い致します。

献金方法：

献金によって“共に”宣教に参加することができます。
教会等でまとめて送ることができる方は、まとめて送られるようお願い致します。

JCMNの以下の口座に振り込んでくだされば、CCMNに送金いたします。

【 フィリピン災害支援 】 とご明記ください

郵便振替口座 00830-6-61768 JCMN 事務局

宜しければ、備考欄にお名前・教会名、E-mailアドレス等連絡先もご記入ください。

ご質問等ございましたらJCMN事務局までご連絡ください。

住所： 〒352-0032 埼玉県新座市新堀2-16-20 松井ビル2F

電話/FAX： 042-493-4470

Email: office-07@jcmn.net

フィリピン災害関連ウェブサイト: <http://www.ccmnglobal.com/> (English) /

フィリピン災害ビデオ: <http://vimeo.com/ccmn>

フィリピン災害フェイスブック: <http://www.facebook.com/ccmnpage>